



防災会だより

第39号 発行 2013. 10. 31

発行責任者：防災会 橋本壽与

～災害に強いまちづくり～

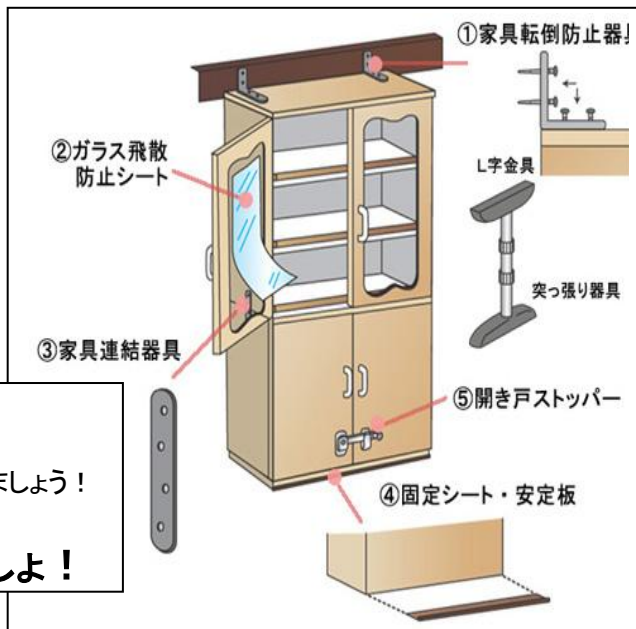
2013. 10. 26 松風台自治会館にて 臨時防災研修会開催

講師 茅ヶ崎市防災対策課 平山陽二郎 副主査 の講演資料を引用

① あなたは災害から生き残るためのスタートラインに立っていますか？

～手軽で一番減最効果の大きい家具の固定、耐震化～

今、自宅にいるときに地震が起こったら、あなたは大丈夫でしょうか？死者の8割が圧死だった阪神大震災では、亡くなった方の90%の人が家具や家屋の下敷きになって地震発生直後に亡くなっていることが、その後の死因調査により分かりました。つまり、地震発生後に近隣の住民や消防隊等が救出しても、10人に1人しか生きておらず、ほとんどの人が即死だったのです。裏を返すと、地震から生き延びるためには、家屋や家具の下敷きにならないための事前の対策を講じないと、地震から生き延びるためのスタートラインに立っていません。いくら消火訓練や避難訓練を実施しても、地震発生直後に無事家から生きてでられなければ意味がないのです。また、地震による負傷要因の7割が家具やガラスと言われています。圧死の予防は地震が起こってからでは手遅れです。家族や自身が負傷せずに無事でいられるための対策は、事前にしかできません！



《家具固定は地震対策の基本中の基本！》

※圧死＝9割即死 負傷の大半は家具やガラスが原因
家具の固定はまずは、家に一番長くいるリビングと寝室から始めましょう！
これで命が助かるなら安いもの！ あとはやる気次第！

家具の固定！いつやるんですか？ 今でしょ！

② 茅ヶ崎市で地震が起きた時、一番怖いのは「火災」

～松風台は市内で3番目に大きい木造密集地域ってご存知ですか？～

木造密集地域が点在する茅ヶ崎市では火災により甚大な被害を被ることが想定されています。たった1件の火災でも、放置した場合に隣の家に次々と燃え広がり、ドミノ倒しのように燃えつながり延焼拡大する単位をクラスター(延焼運命共同体)と呼びます。松風台は、香川から甘沼にかけて4,820棟の家屋が延焼運命を共にするクラスターの中に位置しています。地震時に火災による被害を最小限に抑えるためには、火が小さいうちに早く初期消火することです。一般的な家庭での初期消火は、水道水や消火器となり、火が天井に到達するまでの限られた消火方法となります。みなさんの家庭に消火器はありますか？

4,820棟の家が燃えないように一家に1本、必需品です！



③ 生き残った後の避難先は？

～『広域避難場所』と『避難所』の違いを知っていますか？～

地震直後の混乱から生き延びた後に向かう先は？ほとんどのの方が「避難所(小中学校)」に向かうと回答します。しかし、時としてその選択が命を危険にさらす場合があります。まず、それぞれの場所の意味の違いを知りましょう。『広域避難場所』は、火災の熱から身を守る場所。『避難所(小中学校)』は、身の危険性がなくなった後で避難生活を送る場所です。木造家屋に囲まれた学校で、火災が迫ってきたとき、学校のグラウンドに逃げ込んでも火災の熱により死傷する場合があります。遮蔽物のない場所で火災が迫ってきた場合、300m以上火災から離れなければならないケースもあります。つまり、街に火災の危険性が残っている場合は、『広域避難場所』へ避難し、火災の危険性がなくなってからはじめて『避難所』で避難生活を送るのが正解となります。茅ヶ崎市のように木造住宅が密集した地域では、この避難先の区別がその後の命運を大きく分ける場合があるので、覚えていきましょう。



『松風台の広域避難場所』

火災の熱から身を守るために
スリーハンドレッドクラブへ

『松風台の避難場所』

自宅から避難して、避難生活をおくる場所
香川小学校、鶴が台中学校

～松風台住宅火災の発生予防から初期消火まで～

松風台で地震が起きた時、一番怖いのは「火災」であると、先の研修会で市から具体的に指摘を受けました。
さらに住宅火災は、大災害時のみならず、平和な日頃でも突発的に様々な原因により発生します。
今回は、住宅火災の発生予防から初期消火までについて報告します。

④初期消火訓練の実施

4.1 消防ポンプ、消火栓による消火訓練（大災害時に消防車が来ない場合―防災会 の任務）

2013 年 9 月 14 日(土) 13:00～15:00 参加者:防災会員24名 松風台東公園にて



・消防ホースの基本的取扱訓練

延長⇒連結⇒延長⇒連結⇒放水

- ・上水道が大災害で断水の場合は、防火水槽から消防ポンプで汲み上げて放水
- ・上水道を利用出来る場合は、路上の消火栓に直結して放水
- ・防災会長、副会長が率先して、消防職員の指導により放水操作されました。



4.2 消火器による消火訓練（日頃の突発火災の初期消火活動を含む一隣近所の助け合いをお願いします）

2013 年 9 月 21 日(土)13:00～15:00 参加者:自治会員53名 松風台南公園、及び自治会館にて
当日は、避難移送訓練なども実施しましたが、ここでは消火訓練を紹介します。

・消火器取扱の基本的訓練



- ・消火器の基本的取扱は、
 - ①消火器を持って出来るだけ火元に近づく
 - ②安全ピンを引き抜く
 - ③火元の周辺に向けて放射する
- ・水消火器で、多くの参加者が取扱訓練
- ・酢消火器で、天ぷら鍋火災の消火実演



・最近話題の投てき型消火器の DVD 映写による紹介（消火救出隊長 講師）

・代表的な消火器の紹介



種 類	高 さ	総重量	消火剤重量
A 街頭粉末 消火器	53cm	9.9Kg	6.0Kg
	各家庭からほぼ 100m 以内に配備		
B 汎用粉末 消火器	45cm	4.9Kg	3.0Kg
	最も多用され自治会館にも配備		
C 酢 消火器	38cm	2.2Kg	1.9Kg
	広報茅ヶ崎 2013.年 3 月 1 日号に紹介		
D 投てき型 消火器	20cm	0.7Kg	0.7Kg
	上記に、消火救出隊長が紹介		

⑤ 消火設備類とその用途・性能など

用途	消火設備類	型式など	松風台の保有台数	課題など
大災害時の火災	消防ポンプ	トーハツ V20D 65mmφ ホース	南、東、西倉庫に計3台 計 34 本×20m = 680m	設備は整っているが、操作要員は1台程度であり、とても4台同時には放水できません。
	小型軽量ポンプ (市から貸与)	背負い移動式 40mmφ ホース	東倉庫に1台 4 本×20m= 80m	
	路上消火栓	65mmφ ホース (消防ポンプの構成品)	19個所の消火栓 配置図は自治会館に掲示	消防ポンプよりも比較的少ない要員で放水できるが、上水道が断水すると放水できません。
		移動式ホース格納箱 40mmφ ホース	今年度 1箱を市から貸与予定	
	突発的な住宅火災			
	街頭消火器	A 粉末消火器 総重量 9.9Kg	23個所の街頭に どなたでも使用できるよう設置	いざと云う時のために自宅から最も近い設置場所を把握してください
	家庭消火器	B 粉末消火器 総重量 2Kg, 3Kg, 5Kg	消火器を購入時の選択は一般的には、高齢者にとって軽いほど、取り扱いが容易にはなりますが、消火剤が少なくなります。各家庭に適した方法で。	
		C 酢消火器 総重量 2.2Kg,		
		D 投てき型消火器 総重量 0.7Kg,		
	その他	水バケツ—冷却消火 布シーツ類—窒息消火	早めの消火には様々な方法があります。	

⑥ 突発的な住宅火災発生時の活動の流れ（誰が、いつ、何をするか?）

活動の流れ 当事者		初期活動	本格活動	鎮火後活動
自助	発生住宅者 延焼住宅者	火災発生 初期消火	119 番通報	被災状況把握 復旧計画—短期、長期 り災証明書 請求
近助	近隣住宅者 通行者	*1 隣近所の助け合い（臨機応変な被災者の救済活動）		
公助	消防署		本格消火	被災状況詳細調査 り災証明書 発行
	市役所			様々な救済支援活動
共助	自治会	*2	必要に応じて、 ・被災者のケア、自治会館の開放など ・市役所の支援制度へのサポートなど	

*1 居合わせた隣近所の人々の助け合いが重要であることが、1月の住宅火災で証明されました。

*2 自治会が直ちに組織的な活動を開始することは困難であり、隣近所の協力を ぜひ お願いします。

松風台の災害に対する住環境	住宅火災の発生原因とその予防	住宅火災の早期発見/初期消火																		
1.場所 松風台は茅ヶ崎海岸から北に約4Km、海拔約10mのほぼ平坦な位置にあり、地理的には地震以外に津波、土砂、洪水などの自然災害の恐れは少ない、と推定しています。 2.住宅 1974年から入居開始した1戸建て木造住宅街です。 約570戸の住宅は、順次建替えられてきたが、1981年5月建築基準法改正以前に建築された住宅もかなり残っています。 なお、既に住宅が密集しており松風台、甘沼、香川を含めて総計4,820棟がクラスター（延焼運命共同体）の中にあると市から指定されており、特に強風下における1戸の火災発生から現実味を帯びています。 3.住民 入居当初から住みやすい街ゆえ永住者が多く、茅ヶ崎市で最も高齢化の街になりました。 市へ登録済み要援護者 35名 2013/10月 現在（市の統計）↑潜在者数はもっと多いでしょう 高齢者65歳以上 46.5% 成人20～64歳 41.4% 自主防災組織を支えるメンバーも 未成年0～19歳 12.1% 高齢化しています 4.心配な災害 阪神淡路大震災を教訓に、火災に対して消防ポンプを備えた体制が充実され、東日本大震災を反省して、防災組織を見直し改訂しました。 更に、今年1月松風台歴史上39年目にして初めて平和な日頃突発的に1戸全焼・数戸延焼の住宅火災が発生しました。 このような状態において、住民からは大災害時に限らず住宅火災に対する備えの要請が強まってきました。 自宅から火災を発生させないように！！	茅ヶ崎市消防署による火災統計(HPより) <table><tr><td></td><td>平成22年</td><td>平成23年</td><td>平成24年</td></tr><tr><td>建屋火災件数</td><td>21件</td><td>40件</td><td>25件</td></tr></table> 発生原因（平成22～24年 合計件数） <table><tr><td>放火(疑い含む)</td><td>56件</td></tr><tr><td>*1 たばこ</td><td>10件</td></tr><tr><td>*2 コンロ</td><td>10件</td></tr><tr><td>*3 ストープ</td><td>5件</td></tr><tr><td>火遊び</td><td>4件</td></tr></table> 発生予防 皆さんが既に持ち合わせている知識・経験を思い出し原因を取り除いてください。 *1 たばこ は禁煙すれば、自分自身の健康維持の為にでもあります。 *2 調理用コンロ は台所で普通に適切に使用すれば安全・安心です。 *3 ストープ はこれから寒くなる暖房用です。 購入時の取扱説明書も確認しながら点検して備えてください。決して、衣類の乾燥など目的外に使用しないでください。 * その他 では皆さん自身で家庭内を見まわして危ないと思うことは今すぐ処置をお願いします。 火災予防は、 自分の為、家族の為、隣近所の為、松風台の為 もし・たら・れば ⇒ 今年1月の松風台住宅火災は、 <u>もし</u>、火気を台所で使用していたら、火災は発生しなかったでしょう。 <u>もし</u>、消火器を備えておれば、全焼まではしなかったかもしれない。		平成22年	平成23年	平成24年	建屋火災件数	21件	40件	25件	放火(疑い含む)	56件	*1 たばこ	10件	*2 コンロ	10件	*3 ストープ	5件	火遊び	4件	住宅用火災警報器の100%設置を 2012/6現在 皆さんへサンプリングアンケート調査では26%がまだ設置されていません ⇒ 完全設置は茅ヶ崎住民の義務です。 早期発見して、早めに初期火災すれば、 普通火災なら、コップ一杯の水で消すことも できる場合があります。 天ぷら火災なら、布シート類を被せて消すことも できるでしょう。 しかし、天井まで炎が到達したら手遅れ、 119番 消防車が到着しても全焼でしょう。 消火器は、初期消火の為に必需品です 2012/6現在 皆さんへサンプリングアンケート調査では37%がまだ設置されていません。 もし、火災が発生しても消火器を備えておれば、初期消火を成功させる可能性は極めて高くなります。 ぜひ、各家庭に消火器 を備えて初期消火を 成功させよう！！ 
	平成22年	平成23年	平成24年																	
建屋火災件数	21件	40件	25件																	
放火(疑い含む)	56件																			
*1 たばこ	10件																			
*2 コンロ	10件																			
*3 ストープ	5件																			
火遊び	4件																			